



新しくなった

C型肝炎の治療薬



医学の進歩により、今まで治らなかつた病気が治るようになったという話を聞いたことがありませんか？ C型肝炎の治療がまさにそれで、新薬の登場により治療の現場が大きく変わってきています。今回は、C型肝炎の治療について少しお話をしましょう。

C型肝炎は放置すると肝臓がんになりやすいため、自覚症状が無くても治療が必要な病気です。C型肝炎の治療薬として、今までインターフェロン(ウイルスの増殖を抑制するたんぱく質)が使用されてきましたが、熱が出る、食欲が落ちる、髪の毛が抜けるといった副作用があり、また注射薬なので、1年間、毎週通院が必要という制約がありました。近年、治療薬の開発が進み、インターフェロンを注射しなくてもC型肝炎が95%以上の確率で治るという夢のような新薬が発売され、健康保険で治療を受けられるようになりました。治療期間

もわずか3カ月で、内服薬(飲み薬)です。C型肝炎には1型と2型があり、1型の薬は平成27年9月と11月に2種類発売され、2型の薬は平成27年5月に1種類発売されました。これらの新薬は1錠が数万円という非常に高価な薬ですが、助成金制度があるので、月額上限2万円程度の負担で治療が受けられます。今までインターフェロンの副作用が心配で治療を受けていなかった患者さんが、治療を始めるようになってきました。病状によって早めに新薬で治療を始めた方がよい場合と、もう少し様子を見た方がよい場合がありますので、主治医、もしくは肝臓専門医と相談しましょう。